

長崎外国語大学 新長崎学研究センター 第1回研究会
＜プログラム＞

日 時：2017年7月13日（木）16：30～19：30

場 所：長崎外国語大学 M203 教室（長崎市横尾 3-15-1）

テーマ：長崎の重層的な記憶と表象

『長崎 -記憶の風景とその表象』（葉柳和則編著・晃洋書房・2017年）合評

■タイムスケジュール

- 16：30 開会のあいさつ 新長崎学研究センター長 木本雅康
- 16：35 第1報告
「序章－青来有一の問いを補助線として」 葉柳和則
コメント 坂本彩希絵
コメント 本田貞勝
- 17：05 第2報告
「長崎のカトリック教界におけるローマ教皇来訪の波紋」 四條知恵
コメント 小西哲郎
- 17：35 第3報告
「海港都市長崎と表象の政治－鉄道完編の旅行ガイドブックをてがかりに」 葉柳和則
コメント 坂本彩希絵
- 18：05 小休憩
- 18：15 第4報告
「観光都市における被爆の表象－地図に描かれる長崎を例として」 富永佐登美
コメント 宮崎聡子
- 18：45 第5報告
「なぜ平和を訴えるのか－戦災復興事業をめぐる長崎政財界の動向と原爆被爆者」 新木武志
コメント 宮崎聖乃
- 19：15 まとめ 新長崎学研究副センター長 姫野順一
- 19：25 閉会のあいさつ 新長崎学センター長代理 溝田勉上

当日の様子

